

headline

- ☑ 「プラスチック資源循環戦略」が公表されました (環境省)
- ☑ 平成30年度森林・林業白書が公表されました (林野庁)
- ☑ 事業活動報告、SEFからのお知らせ



トピックス

「プラスチック資源循環戦略」が公表されました (政府・環境省)

5月31日に政府から、プラスチックごみを削減し資源循環を総合的に推進するための「プラスチック資源循環戦略」が公表されました。

第四次循環型社会形成推進基本計画を踏まえ、3R+Renewable (再生可能資源への代替) を基本原則として、資源・廃棄物制約、海洋プラスチックごみ問題、地球温暖化、アジア各国による廃棄物の輸入規制等の幅広い課題への対応を目指します。

この戦略では「リデュース」「リユース・リサイクル」「再生利用・バイオマスプラスチック」の項目ごとに数値目標(マイルストーン)を示していますが、注目点として、2018年6月にカナダで開催されたG7サミットで掲げられたものの日本は署名を見送った「海洋プラスチック憲章」と比べ、すべての数値目標において野心的な目標設定がなされていることが挙げられます。公表後にニュース等で大きく取り上げられている「レジ袋有料化」は、この目標のうち「リデュース：2030年までにワンウェイプラスチックを累積25%排出抑制」に対応するもので、6月初旬には環境相が全国のスーパーやコンビニなどでのレジ袋無償配布を法令で禁じる方針を表明するなど、今後はこの戦略に基づき、数値目標の達成に向けた各種政策が展開されます。

この戦略について詳しくは、下記リンクから環境省ホームページをご覧ください。

<http://www.env.go.jp/s/106866.html>

項目	基本原則：「3R+Renewable」	【マイルストーン】
リデュース	ワンウェイプラスチックの使用削減(資源有効化義務化等の「値上げ」) 石炭由来プラスチック代替品開発・利用の促進	①2030年までにワンウェイプラスチックを累積25%排出抑制 ②リユース・リサイクル
リサイクル	プラスチック資源の分別が容易な分別回収・リサイクル 資源循環の効率化による費用削減・資源有効利用率の最大化 資源循環と健全な経済成長による資源有効利用率の最大化 アジア等輸出先と対立しない国内資源確保体制の構築 イノベーション促進型の公正・倫理的なリサイクルシステム	③2025年までにリユース・リサイクル可能なデザイン ④2030年までに資源包装の6割をリユース・リサイクル ⑤2035年までに使用済みプラスチックを100%リユース・リサイクルにより、有効利用 ⑥2030年までに再生利用を目標 ⑦2030年までにバイオマスプラスチックを約200万トン導入
再生利用・バイオマス	利用可能なバイオマス(技術革新・インフラ整備支援) 廃棄物削減(政府率先調達(グリーン購入)、利用促進型施策等) 資源利用のための化学物質高含有物の削減 可能な限り指定廃棄物のバイオマスプラスチック製用 バイオマス導入ロードマップ・燃料システム構築の一体導入	
海洋プラスチック問題	プラスチックごみの流出による海洋汚染が生じないこと(海洋プラスチックゼロビジョン)を目指し、 ポイント・不法投棄撲滅・適正処理 沿岸産業等からの回収処理 海洋ごみ監視(モニタリング)手法の高効率化	⑧マイクロプラスチック排出削減対策(2020年までにプラスチック製品のマイクロプラスチック削減等) ⑨代替イノベーションの推進
国際連携	途上国における実効性のある政策支援(我が国のノウハウ・ハードウェア、技術等をオーダーメイドパッケージ輸出で国際協力・ビジネス展開) 地球規模のモニタリング・研究ネットワークの構築(海洋プラスチック分布、生態影響等の研究、モニタリング手法の標準化等)	
資源循環	社会システム構築(ノウハウのリアルタイム構築・サプライチェーン構築) 技術開発(再生可能資源による代替、革新的リサイクル技術、消費者のライフスタイルのイノベーション) 高効率化(マイクロプラスチックの発生抑制、影響・流出状況、流出抑制対策) 資源循環(ESG投資、エシカル消費) 連携促進(各主体が持つ課題の取組を促進するプラットフォームの展開)	⑩資源循環関連産業の振興 ⑪技術開発(再生可能資源による代替、革新的リサイクル技術、消費者のライフスタイルのイノベーション) ⑫高効率化(ESG投資、エシカル消費) ⑬連携促進(各主体が持つ課題の取組を促進するプラットフォームの展開)

◆アジア太平洋地域域は、世界全体の資源・環境問題の解決のみならず、経済成長や雇用創出 ⇒ 持続可能な発展に貢献
◆産官各分野各層との連携協働を通じて、マイルストーンの達成を目指すことで、必要な投資やイノベーション(技術・消費者のライフスタイル)を促進
画像をクリックすると環境省HP内のPDFファイルを開覧できます

トピックス

平成30年度 森林・林業白書が公表されました (林野庁)



イメージ画像は昨年度版のものです

6月7日、林野庁から「平成30年度 森林・林業白書」が公表されました。今回公表された白書では、トピックスとして、平成30年7月豪雨や北海道胆振東部地震などの自然災害により、林業関係においても甚大な被害が発生したことを受け、関係者が一丸となり事前防災・減災に向けた「国土強靱化」の取組を推進することがあげられています。また、SDGsにおいて、森林・林業・木材産業に関わる取組は、目標15を始め、安全な水の確保や山地防災を通じた強靱な国土の形成、クリーンエネルギー化の推進等の14の目標達成に貢献することも記載されています。さらに、本文中には、国際的な取組の推進として、「持続可能な森林経営」「地球温暖化対策」「生物多様性」等に関連する内容も紹介されています。

公表された白書の全容は、下記リンクから林野庁ホームページをご覧ください。

<http://www.rinya.maff.go.jp/j/kikaku/hakusyo/30hakusyo/index.html>

ゼロエミッション研究会 第2回勉強会を開催しました

4月18日にキックオフした「2019年度ゼロエミッション研究会 実践で学ぶ！持続可能な食リループのつくり方 ～仕組みづくりから認定取得まで～」の第2回目の勉強会を6月13日（木）15時から、東京駅八重洲口そばの「東京八重洲ホール」にて開催しました。

今回も、名古屋市での食品リサイクルループへの参加を前提として、（株）リンガーハット様、（株）松屋フーズ様、（株）セブン&アイ・フードシステムズ様、ワタミ（株）様の4社、食品リサイクルについて学びを深めたいというオブザーバー参加として、アルガエナジージャパン（株）様、（株）船橋屋様、日本マクドナルド（株）様、トリドールホールディングス（株）様の4社、計8社の環境部門担当者が集い、企業の垣根を超えた共通課題の解決に向けた勉強会を実施しました。

【廃棄物処理業者選定のポイント】

前半では、志岐秀明理事（（株）ガイアドリーム代表取締役）に、食品リサイクルループへの取組みを推進する際に直面する廃棄物処理業者（収集運搬業者、再生利用事業者）の選定のポイントについて、レクチャーいただきました。

志岐理事からは、冒頭で廃棄物業界の近況トピックスをご紹介いただいたのち、委託先の選定には「許可証の確認」「現地現場の確認」「見積の適正性」の3点がポイントになることなど、実務的な観点に立った処理業者選定時のポイントを、事例を交えながら解説していただきました。

その後、参加者からは、「会社からはコスト抑制を要求されているが、何か方法はないか？」といった質問があり、志岐理事からは「処理業界も人材不足や処分費高騰などにより厳しい状況に追い込まれている。排出者側同士の意見交換や、排出者と処理業者双方で効率化策を検討していくことなどが必要ではないか」との見解が示されました。



【食品リサイクルループ構築までの実務的な流れ】

後半は、食品リサイクルループを実際に構築し、持続可能な運用を図っていくためのポイントについて、百瀬則子理事（ワタミ（株）SDGs推進本部長）にレクチャーいただきました。

食品リサイクルループ構築の要点や、「分別のルール作りと徹底」「発生する食品循環資源の種類と量の把握」「肥飼料の品質検査を主体的に実施」「処理業者との契約書への仕様明記」「社内体制の整備と役割の明確化」といったそれぞれのポイントについて、事例を用いて解説いただきました。

続いて、事務局から再生利用事業計画認定手続きの詳細についての説明を行った後、情報共有と質疑応答に移りました。各社からは現状把握の状況や、今回の名古屋市における食品リサイクルループ構築に向けた具体的な課題や懸案事項についての意見があがり、次回勉強会に向けて整理すべき課題や更なる現状把握が必要な項目について再確認し、散会しました。



第3回勉強会は8月22日（木）15時から、今回と同じく「東京八重洲ホール」会議室での開催を予定しております。第3回からのオブザーバー参加はもちろん、ループへの正式参加のご希望も承ります。

今回の勉強会の詳しい内容は、下記リンクからホームページをご覧ください。

<https://save-earth.or.jp/archives/6254>

森林再生事業 活動報告

6月の活動報告（定例活動）～日向の森（千葉県山武市）～

6月の日向の森の活動は、初回活動日の前日に関東の梅雨入りが宣言されましたが、8日（土）、22日（土）とも時折雨に降られたものの、予定通り実施することができました。



8日の活動には、東京から大学4年生3名、地元山武から高校3年生1名が初参加。どちらもホームページからボランティア募集を知り、申し込んでくれました。スタッフ2名と合わせて計6名で、5月に植樹したスギの支柱固定を行った後、日向の森から種を拾って育てたサンショウやケヤキなどの苗木を植樹しました。22日は、8日に参加してくれた高校生がお友達と2名で参加。常連参加の2名とスタッフ2名の計6名で、路網の草刈りと植樹地下草刈りの2班に分かれて活動しました。午後にはスコールのような雨に見舞われましたが、びしょ濡れになりながらも普段できない体験を楽しんでいただけたようです。

※この活動は（公社）国土緑化推進機構「緑の募金」の助成を受けて実施しました。

森林再生事業 活動報告

在来種を保全する活動を実施しています～東御の森（長野県東御市）～

高度約1,000mの中山間地に位置する「東御の森」は、森の中央に川が流れる溪畔林で、多様な生物が生息しています。一方で、森内には川に沿ってオオハンゴンソウ（特定外来植物）が点在していることが確認されています。放置すると森の生態系に大きな影響が及ぶため、3年前から学校法人郁文館夢学園様（東京都文京区）にご協力いただき、群落化しているエリアで、抜去作業により在来種を保全する活動を実施してきました。



開始当初はオオハンゴンソウで埋め尽くされていましたが、現在は他の草花も混在するなど、成果がみられています。今年度はさらに、専門調査員による森全体の繁茂状況の確認調査や作業場所の変化を確認するためのコドラード調査を数か所実施して、今後の長期的な対策を検討します。

活動の様子は随時公式Facebookページで紹介しますので、下記リンクからフォローをお願いいたします。

<https://www.facebook.com/saveearthfoundation/>

※この活動は、独立行政法人環境再生保全機構「地球環境基金（つづける助成）」を受けて実施します。



SEFでは、各地域での森林保全活動をお手伝い頂けるボランティアさんを随時募集しています。

千葉県山武市では原則として毎月第2・第4土曜日（東京駅から送迎いたします！）に定例活動を行っているほか、兵庫県丹波市、大分県臼杵市でも定期的実施しています。

直近の活動は下記を予定していますので、ぜひご参加ください。



<7・8月の活動予定>

千葉県山武市
7月13日(土)、27日(土) | 8月10日(土)、24日(土)

兵庫県丹波市
7月21日(日) | 8月17日(土)

※日程は変更となる可能性があります。
最新の情報はホームページを参照ください。

最新情報、お申込みはこちらのリンクから…<https://goo.gl/uEt3CZ>



企業・団体向け森林体験プログラム 「森活」のご案内

SEFでは、企業や団体の皆様向けに「森活」をご提案しています。

私たちがご提案する「森活」とは、「森を活かす」こと。“森”での“活”動を通して、社会貢献活動の一環としての取組みに、またチームの関係性の基盤づくりや強化に、さらにはリラックス・リフレッシュのための福利厚生など、様々な効果につなげることができると考えています。

フィールドとしてご用意するのは日向の森（千葉県山武市）。都心からおよそ90分の好アクセスで、企業・団体の皆様の「森活」をお手伝いします。

皆様のご要望に応じたメニューをご提案しますので、まずはお気軽に事務局までお問い合わせください。

「森活」ってどんなことをするの？

季節に応じて、様々なプログラムをご用意しています。



植樹

下草刈り

間伐



ツル切り・枝打ち

薪割り

森林散策

クラフト